

2016年

9月号

Vol.7

岩手県立磐井病院
BFHプロジェクトチーム

おっぱい通信

赤ちゃんに優しい病院を目指して

出ないおっぱいを吸わせるのは

赤ちゃんに優しくないのか～赤ちゃん主導の授乳～

産後のお母さんや家族から「おっぱい出ていないから泣くんですよ」「赤ちゃん寝れなくてかわいそう」等と言われることが時々あります。おっぱいの分泌がまだこれからという時期(当日～3日くらい)は1日のほとんどの時間授乳してばかりの生活をしています。でも赤ちゃんが上手に吸うことができている場合、当の赤ちゃんはそんなに深刻な思いをしていません。まだ胃も小さいので極少量を頻回に飲みます。これこそが**赤ちゃんに優しい飲みませ方**です。

おっぱいを3時間毎に飲んで寝るようになるのはずっと先。1～2時間おきの授乳は普通です。頻回で有効に吸ってもらうことにより母乳分泌が促され、まとまって眠れる日が最短で訪れます。妊娠中からこのことについて、妊婦さんとよく話しあって理解を深めておく必要があります。



第8条 赤ちゃん主導の授乳を…

新生児科医の立場から

母乳育児成功のための10か条、第7条では赤ちゃんが欲しがる時に欲しがるだけの授乳を勧めましょう」と述べています。

今月は当院の小児科・矢野先生より寄稿していただきました☆

哺乳運動は原始反射として生後すぐから見られますが、実際の哺乳は吸啜・嚥下の協調運動や消化管の動きに規定され、出生時の状態や子宮外環境への適応により個人差があります。従って欲しがる時に欲しがるだけの授乳は児にとって無理なく生理的と言えます。また児の欲求に応じた授乳により母乳分泌も促進され、母乳育児が軌道に乗りやすいとも考えられます。一方、新生児科の入院管理となるのは、いわゆる“未熟児”や呼吸障害や先天異常を伴った児などで、経口哺乳が未熟・困難な一方、低血糖や脱水傾向に陥りやすく、どうしても授乳回数や量を規定して管理が必要となる場合があります。このような場合にも、発育・発達に留意しながら、極力早期に母乳栄養を開始し生理的な授乳体制に移行できればと考えています。

医学的に必要でない限り母乳以外のものは与えない…に基づいて



泣くのは最後のサイン

その前に赤ちゃんは欲しがるサインを出している!

3西病棟では、出産直後より赤ちゃんとお母さんは一緒に過ごし、赤ちゃんが欲しがるサインを出したらすぐに授乳ができるよう支援しています。しかし眠りがちな赤ちゃんは起さないと何時間も眠り続けてしまい、低血糖になったりお母さんの母乳分泌が遅れることもあり母乳分泌が確立するまでは「**長くても3時間で起きてもらって飲ませる**」ことにしています。これも赤ちゃんにとっての**優しさ**であると考えます。

お問い合わせ

院内の妊婦の皆様、当院での妊婦健診を受けられている方もいない方もぜひおっぱいについて話しましょう! わからないこと、聞きたいことは是非ご相談を!! さらに、**一緒にこのチームに参加して頂ける方も大募集!!**どうぞお気軽にご連絡ください★

BFHプロジェクトチーム

チームリーダー : 今野貴子(3西病棟)

通信発行担当: 佐藤 恵(3西病棟)

